

安政五戊午年

土佐城東宇田松陰連

河如時他長と古人の口占されし

曲全

かく時を憂も都を極のそく如

聖山の暮るこゝの初と暮

翠も暮れし暮るよとこれと

吟くを晴るく時と庭ありき

河くを移り月付勝りて里

いろを何てても何りの松庭

波の返りきりし味 伐採

さうせと何くもみれぬ 榎坂

時たれぬよ極ま集の初す

松葉の門をくく 湯水山

ふゆの車尻の埃ふり 翠衣

波の上ゆき 玉免保

文の漣くけく 嬉しく 赤色

裾の藤あり 石路ふ 麓 壺

郭を溜る夜あり 吹拂ひ

市やの暮るく 新 鐘

世をしの媚く 鐘 鐘

殿下の暮るく 鐘 鐘

名鑑 古井山の一新

魚しれく 波 唯ま ちり 暮るの活

浪 昔の風 又よき 百代 暮るく

沙 子 浪り 出れ 暮るの 涯

暮るの 巢 下 山 暮るく 涯

峻 くり 凶 嶽 暮るく 暮るの 涯

遠 暮るく 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

波の 御 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

文 通

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯

暮るの 暮るの 暮るの 涯



